

# 江戸時代日本地図作者の長久保赤水 中学の地理教科書に初掲載

04月05日 11時46分放送

現在の高萩市に生まれ、江戸時代に広く使われた日本地図を作った長久保赤水の功績が、初めて中学校の教科書に掲載されたことが分かりました。

長久保赤水について掲載されたのは、今年度から使われる「帝国書院」の中学校の地理の教科書です。

日本地図の変遷を紹介するページで、1780年に初版が出された赤水による初めての日本地図で、現在の経度と緯度にあたる線を記した「改正日本輿地路程全図」が赤水の名前とともに掲載されています。

そのうえで、伊能忠敬が作った地図よりおよそ40年早く作られ、伊能図は幕府が一般に公開しなかったために、一般の人はこの地図を頼りにしていたと紹介されています。

赤水図は収集した各地の資料から、天文学の知識を使って作られたのが特徴で、高萩市歴史民俗資料館に保管されている地図や文書は、去年、国の重要文化財に指定されています。

帝国書院は「江戸時代に多くの方が使っていた地図ということで、赤水図についても伊能図とともに学んでほしい」と話しています。

高萩市教育委員会は今年度、この教科書を採用し、中学校の地理の授業で郷土の偉人について学んでもらうということです。

30年近く赤水の功績を伝える活動をする、長久保赤水顕彰会の佐川春久会長は「伊能忠敬も赤水の地図を持ち歩いたとされています。掲載を機に大勢の人に赤水を知ってほしい」と話していました。

〔NHK水戸放送局・斎藤 怜 SaitoRyo 記者〕

以上、NHKの放送内容全文。